

仕事について



代表取締役
矢作文弘

今年も丁度、前期が終り、後期が始まります。会社も一段落して後期に向かい新たなスタートを切りました。

仕事の様子も競争環境が大変厳しく相変わらず、公共工事においても、入札額を大きく落とさないと落札できない現状で、直接工事費、いわば外注費ベースの争いとなり、現場代理人費、間接経費が出ないであろう金額で落札されている案件も見られます。それに加えて社会環境の悪化です。慢性的な人材不足で疲弊している現場に、増える一方の書面作成業務がのしかかかっており、業務負担の増加は人件費の負担増に直結しています。こうした価格低下と業務負担増という両面からの圧力ともいえます。

我が社は、「地元で根ざした健全で適切な経営を行い、地元で貢献していく」という方針で40年以上企業経営を続けており、今後もその方針で経営を続けていきたいと考えています。人材豊富で有能な役所、意欲的な企業、住民の皆が牽制し足を引っ張り合うあうのではなく、「三方良しの精神」で、前向きな方向に歯車を回していけるよう、強く望んでいます。

さて、弊社の明るい話題は、新入社員の入社です。今年で3年間連続で工業高校卒業生が入社し、先輩社員も含めて、私の同窓の社員が7名となりました。一年間を経ると、それぞれの社員は大きく成長し、先輩後輩といった上下関係を含めて、それぞれの立場を踏まえた言動で互いに刺激しあっており、その成長には目を見張るものがあります。このまま成長していけば、大きな戦力となることは間違いありませんが、その過程では本人達の忍耐力も大いに試されることでしょう。

私としては、これまで培った長年の経験からフォローしていけば大丈夫だろうと期待しています。

俗に言う「一人前」の条件は何か、と問うと、仕事ができることが挙げられますが、何を持って仕事ができるというのかが肝心です。私の考えでは、自分の力で仕事を取り、こなして、利益を上げることが基本です。各社員が、様々な形でこの基本を体現し、その基本を大きく広く発展させていく意識をもっていることが、伸びる会社の条件ではないかと思えます。会社全体としては、まず営業力を強化し、葛西建設としての信用を積み上げ、利益を物差しとする成長も続けていくこと。その先に人材が来てきて、リーダーが育っていくことでさらなる発展につながる、そういった方向を目指していきたいと思っています。



球速163km/hとは

一級建築士
深谷 泰資

今年のプロ野球も開幕してから3ヶ月が過ぎようとしていますが、今年の話は楽天的に入団したオコエ選手と日本ハムの大谷投手ではないでしょうか！特に大谷投手は球速163km/hの日本新記録を出しましたので、これからの活躍も期待したいところです。さて、それでは球速163km/hを建築設計の視点から分析してみます。

構造設計で用いる風圧力として163km/hを風速に直すと、 $163\text{km/h} \times 1,000\text{m} \div 60\text{分} \div 60\text{秒} = 45.3\text{m/s}$ となり、現在、建築基準法・施工令で耐風設計の基準として定められている風速 $V=34\text{m/s}$ (都内)より1.33倍速いということになります。実際の設計にしようする時は、速度圧(g)に変えて建物の強度を設計していますので、その検討もしますと、 $V=\sqrt{16 \times g}$ 式により $g=128.3\text{kg/m}^2$ となります。つまり、1m四方の面積に128.3kgの圧力がかかっていることになるのです。例えるならば、

畳半分強の床の上にお相撲さんが1人乗っているほどの力です。計算してみると、それほどの大きな力を、大谷投手は片腕で生み出しているということになるのです！すごい能力だと思わずにはいられません。

ちなみに、他の投手の球速ごとの風速と速度圧も下記に出してみました。

球速 (km/s)	風速(m/s)	速度圧(kg/m ²)
140	38.9	94.6
145	40.3	101.5
150	41.7	108.7
155	43.1	116.1

地震力との比較ができるとより関心を持っていただけると思うので、次の機会には地震力に例えてみたいと思います。

今年4月に新卒社員として入社した渡邊を紹介いたします。



2016年入社

工事部
渡邊龍太郎

今年の4月に入社した渡邊龍太郎です。僕が現場監督になろうとしたきっかけは、高校に通学している時に何も無い平地だった所いつの間にか家が建っていてその時に、どういった工程で建物が建っていくのか、完成するまでにどんなことをするのかを知りたくて、そういったことを管理しているのが現場監督だったのでこの職業を選びました。

入社してまだ2か月目で分からないことだらけで正直、不安なことが多いです。高校で勉強してきたことと、実際に現場に出てみて作業してみたら予想以上に大変でした。現場でレベルを据えつける時に高校で据え方を習っていましたが、時間がかかってしまって先輩に手伝ってもらいました。でもその時先輩方に優しく、分かりやすく教えてもらい勉強になりました。

今自分が担当しているM邸新築工事とN邸新築工事が初めての現場になります。職人さんの手伝いや、墨出し、コンクリート打設、建て方などといったことをやらせてもらい大変で

はありましたが、出来た時の達成感がとても嬉しかったです。

M邸やN邸の現場が終わって、次にまた木造の現場を担当することになったら、家を建てるための工程や現場の流れなどを理解、把握しておき、スムーズに仕事や段取りが出来るようになっておきたいです。また他の現場を担当、お手伝いに行ってもそれらの経験を活かせるように一生懸命仕事を覚えて、これから沢山の経験を積んで自分のレベルアップに繋がられるように頑張ります。

今期竣工した新築住宅をいくつかご紹介いたします！

(1) 旧居の柱を活かした仏壇が素敵なM邸



左写真の中央のつやつやと飴色に輝いている柱が旧宅の柱です。現代ではなかなか手に入らない立派な柱。時を経て受け継がれるという格と旧宅の思い出といった新しいものにはない価値があります。こうした家族の伝統を大切に残した温かい住まいをつくることのできるのも、注文住宅の醍醐味ですね。

(2) 輸入建具を多く利用したハイセンスなN邸



大面積のヘリンボーンの床や中庭など、大工さんの多大な手間がかけられている大変贅沢なお宅です。おしゃれな建築雑誌で特集されそうなデザイン性の高い憧れの空間です。輸入建具は、メンテナンスが大変ですが、このように洗練された雰囲気を作ることができるということが大きな魅力ですね！